

## わが国におけるビール用ホップ栽培地の景観構造について

○辻野 木景 [東京農業大学]    △栗田和弥 [東京農業大学]

ビールの原料として、大麦・水と並んで欠かせないものとなっているのが独特の苦みを付加するホップ（アサ科セイヨウカラハナソウ）である。原料のうち大麦は、焼酎やパンなど様々な用途で使用されているのに対し、ホップは国内生産されている物のほとんどがビール会社との契約栽培となっており、ビール産業との関わりが非常に深いものとなっている。そもそもビールは日本の飲料ではないものの現在の食生活では重要なものといえ、原材料も在来種ではないものの、東北地方と北海道において主に生産されている。なかでも秋田県平鹿郡大雄村の「ホップ畑と鳥海山」は「農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究（報告）」（2005）において、文化的景観候補として二次調査の対象として挙げられるなど、景観的にも価値があるものとされつつあるといえる。

そこで本研究ではわが国におけるホップ栽培地の発祥状況および、形成過程を整理し、地形を把握することによりホップ産地の景観構造を明らかにすることを目的とした。対象地としては、現在、主要産地である秋田県、岩手県、山形県、北海道とし、文献調査等により、地形構造の把握を行い、わが国における知られていない景観利用の新しい提案を行いたい。

## 東京・下町の魅力を探るマップ制作について

○菅原 雅子 [東京農業大学]    △栗田和弥 [東京農業大学]

街の中には様々な道・路地・裏路地がある。道は地域の特色が色濃く表れる。中でも自動車も行き来できないような狭隘な路地・裏路地（表通りに対して一次屈折を路地、二次屈折を裏路地とする）は、特に地域の特色が出ている道（地域によっては坂路）だといえるのではないだろうか。都市化が進む中で、昔ながらの変わらない町並みは貴重なものである。都市防災等の観点から新たな路地は形成されないために残された路地を保存することは歴史性を重んじる街においては重要なことであるといえることができる。また、ニュータウン住民の高齢化などに反して、東京をはじめとする下町は、人とのふれあいが密接に可能なメリットが、昭和時代のなつかしさも手伝って新たに注目されてきている。

そこで本制作では、東京都葛飾区を対象地として、その土地の歴史・特色・風情を残す路地・裏路地を探る。それらを地図上に示し、新たな下町の魅力を発見するツールにすることを目的としたい。成果品としてのマップは、①路地・裏路地の位置を記載した平面図、および、②イラストマップによって道・路地・裏路地からの興味ポイントを紹介する。